

富良野へ帰つてこないかい?

富良野にUターンして見つけた自分らしい毎日

進学を機に富良野を巣立ち、新しい土地で暮らす経験は、富良野の良さを再認識させてくれます。大学で学んだことを持ち帰り、社会人としての新たな一步を踏み出した人に迫るUターン就職応援企画・最終回。仕事に励み、友人と過ごす時間や書道でリフレッシュ。心休まる場所・富良野にUターンし、新たな価値を見出します。

多くの人に支えられ、仕事と書道を両立

●離れて強く実感した友人の大切さ

今年4月、就職のため富良野に帰ってきた村上さんは、高校時代に書道の全国大会にも出品した腕の持ち主。書道部顧問に勧められ、日本で唯一書道学科がある東京都内

の大東文化大学へ進学。講義で基礎知識を身に付けながら、書家に弟子入りして表現力を磨き、青春のすべてを書道に捧げてきました。「大学の授業と書家の先生の稽古で忙しく大変でしたが、とても充実した4年間でした。その一方で、高校と大学での取り組み方の違いや、北海道と全国のレベルの違いなど、さまざまなギャップを感じて悩みましたね」。そんな時に支えてくれたのは、富良野に住む幼なじみの仲良しがループ。帰省するたびに会って悩みを打ち明け、元気をもらいました。北海道へ戻ろうと決意した理由は、友人の存在が大きかったと村上さんは話します。

知人が来ると照れてしまうこともあります、「愛される銀行員をめざしましょう」という支店長の言葉を目標に、毎日、窓口業務を行います



自宅の一室で書に励み、展覧会に出品する時は100枚以上書き上げます

●職場に恵まれ社会人としても成長

かは自分の教室で子どもたちにも書道の楽しさを伝えたい」と夢を語ってくれました。

道内企業に絞って就職活動をした村上さんは、現在勤める北海道銀行から内定をもらい、運良く富良野支店へ配属。接客しながらお金の知識を身に付けられる銀行員の仕事を、自分の将来にも役立つと考え就職しました。就業時間がある程度決



PROFILE

北海道銀行
富良野支店
村上 理冴さん
(23歳)

富良野高等学校時代、書道部顧問の勧めで大東文化大学文学部書道学科へ。4年間、学校と書家の先生のもとで書道漬けの毎日を送り、現在の勤め先に新卒で採用。やりがいのある仕事と大好きな書道を両立しています。

まっているので、書道にもしつかり取り組むことができています。仕事から帰ると実家のアトリエで積極的に参加し、刺激を受けるように制作に打ち込み、時には日付が変わっているそうです。そんな書家としての一面を職場の仲間も理解し、同僚の提案で銀行内の一角で小さな展覧会を開催しなんてめったに開けません。企画してくれた先輩たちに感謝していく「と、恵まれた環境で働けることに喜びを感じているようです。社会人一年生の村上さんがすべての業務をこなせるようになるには、覚えることがまだまだあります。毎日行われる先輩行員との勉強会で着実に仕事を覚えながら、書道のレベルアップに励み、銀行員としても書家としても一人前になれるよう日々努力を重ねています。